

平成31年1月教育委員会定例会 会議録

平成31年(2019)1月22日(火)午後2時、出雲市教育委員会定例会を市民応接室に招集した。

1 会議に出席した委員

教 育 長	榎 野 信 幸
教育委員(教育長職務代理)	松 浦 剛 司
教 育 委 員	小 豆 澤 貴 洋 子
教 育 委 員	水 陽 子 志
教 育 委 員	錦 田 剛 志

2 説明のため会議に出席した者

教 育 部 長	植 田 義 久
教育部次長(教育施設課長)	金 山 隆 司
子ども未来部次長 (保育幼稚園課長)	坂 本 伸 仁
教 育 政 策 課 長	渡 部 祐 子 志
学 校 教 育 課 長	金 築 健 志 之
児 童 生 徒 支 援 課 長	児 玉 弘 之 治
学 校 給 食 課 長	金 森 真 利 明
出 雲 科 学 館 長	山 本 利 創
学 校 教 育 課 主 査	山 崎 俊 樹
児 童 生 徒 支 援 課 課 長 補 佐	渡 部 俊 樹
第 一 中 学 校 校 長	打 田 祥 一 治
北 陽 小 学 校 校 長	松 本 泰 治

3 会議の書記

教育政策課課長補佐	常 松 晃 好
-----------	---------

4 傍聴者

0人

開会

(榎野教育長) 只今から、平成31年1月出雲市教育委員会定例会を開会します。本日の会議はお手元に配付しております日程のとおり行います。

1 出雲市教育委員会感謝状の贈呈

(榎野教育長) まず初めに、出雲市教育委員会感謝状の贈呈を行います。教育政策課 渡部課長に進行をお願いします。

(渡部課長) 只今から、出雲市教育委員会感謝状の贈呈を行います。本日、感謝状を贈呈する方は、天野 勲 様です。贈呈の前に、ご功績につきまして、ご紹介申しあげます。

(ご功績の紹介)

先般開催されました出雲市教育委員会において、出雲市教育委員会感謝状贈呈要綱第5条の規定により感謝状贈呈が決定されましたので、本日、教育委員会感謝状を贈呈するものです。

(榎野教育長、感謝状を贈呈)

(天野 勲 様 ご挨拶)

(渡部課長) 以上をもちまして、出雲市教育委員会感謝状の贈呈を終了します。

2 教育長行政報告

(榎野教育長) それでは、教育長行政報告を行います。

(榎野教育長) (以下、報告項目のみ掲載)

(1) 前回以降の動向

H30.12.28	仕事納め式
H31.1.4	市新年賀会
H31.1.7	仕事始め式
H31.1.13	出初式
H31.1.13	成人式
H31.1.15	校長の会議
H31.1.16	管内教育長会
H31.1.18	市議会全員協議会
H31.1.18	ブラジル絵本贈呈式
H31.1.18	まちづくり懇談会(川跡)
H31.1.21	選択校区今市地区意見交換会
H31.1.22	定例教育委員の会議

(2) 今後の予定

H31.1.28	まちづくり懇談会(大津)
H31.1.29	管内教育長会
H31.2.4	校長面接 ~2.19
H31.2.6	小中連携推進委員会
H31.2.7	いじめ問題対策委員会
H31.2.7	年中児発達相談医師会との意見交換会
H31.2.8	保幼小連携推進委員会
H31.2.9	大社幼稚園100周年記念式典
H31.2.12	臨時教育委員の会議
H31.2.13	管内教育長会
H31.2.14	科学館運営理事会
H31.2.15	手づくり郷土大賞認定証授与式
H31.2.15	校長の会議
H31.2.15	まちづくり懇談会(佐田)
H31.2.18	市議会初日 ~3.20
H31.2.20	市議会施政方針質問
H31.2.21	定例教育委員の会議

(榎野教育長) 只今の報告で、質問等がありますか。

(各教育委員) ありません。

3 会議録の承認

(榎野教育長) 次に、会議録の承認に入ります。前回12月定例会の会議録について、何か意見がありましたでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(榎野教育長) 特に意見等ありませんので、12月定例会の会議録については承認します。

4 報告

(榎野教育長) 次に、報告事項に入ります。報告(1)「学校給食における異物混入防止対策について」を、学校給食課 金森課長に説明願います。

(金森課長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の報告（1）について、何か質問等はありませんか。

(松浦委員) カメラの設置だけ夏季休業中に行うとされているのは予算の関係ですか。

(金森課長) カメラの設置は休業期間中でなければできないのですが、春休みに行く施設の改修と合わせて行うことは物理的に難しいということで、夏休みに設置工事をする予定としています。

(槇野教育長) 金属探知機は、調理する場所とは直接関係ないところへ設置しますので良いんですけど、カメラは調理作業場の中へ設置しますので、まとまった日数がある休業中に行う必要があることと、やはり優先度もありまして、急ぐ対策は早くしたうえで、準備が要るものは必要な時間をちゃんととってという考えもあります。

(松浦委員) それと、前回の定例会で、異物混入が起きた場合の他の学校への情報伝達の時間短縮についてお願いし、体制作りを早急にしますとお答えいただきました。そこはもう確立されたのでしょうか。

(金森課長) まだ確立しておりません。

(松浦委員) 防止対策を策定されるのは良いんですけど、学校へ対策の徹底を求めておきながら、また、前回、教育長も早急にやりますとお答えされましたのに、まだされていないというのは、やはり、危機管理の意識の甘さではないかと思います。異物混入が発生した後、2人目が異物を口にしないということはとても重要なことであり、現場に対しての配慮という面において、それはもう今月にでもすぐにできる話ではないでしょうか。特に、現場は未だ緊張状態であり、また起きてしまったときに、他の学校への報告が30分～40分かかりましたというのは許されないことだと思うので、そこはもう少し気を引き締めていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(金森課長) すぐに体制作りをいたします。

(小豆澤委員) 宮崎県の公的機関による行政検査では、製造業者の製造加工工場における異物混入の可能性は極めて低いとあります。本市教育委員会における我々への説明は、ここでの混入の可能性ということでありましたけれども、この結果をどう受けとめていらっしゃるでしょうか。

(金森課長) 当該調査で直ちに異常が見つかるとも思っておりませんでした。あらゆる方向から手を尽くして調査したわけですが、原因の究明には至っていないということで、私どもとしましては、本防止対策を徹底して、これ以上混入させないということでやっていくということでしか信頼回復の余地はないかなというふうに考えています。

(小豆澤委員) そうすると、出雲市教育委員会の見立てでは、この製造加工工場にある金属探知機では異物を感知できなかったということになると思いますが、この工場に設置してある金属探知機と、これから導入なさる金属探知機と差はあるのでしょうか。

(金森課長) そこまでの検証はしておりません。

(小豆澤委員) 以前、金属探知機は安価なものから高額なものまで様々であるという説明を受けました。私も詳細な規格を承知しているわけではありませんが、仮に今回導入される金属探知機が安価なものである場合、金属探知機を設置することによってリスクを回避することができるのかどうか疑問が生じます。最小限の検討として、この製造加工工場にある金属探知機では感知できなかったという前提に立つならば、それ以上のものを設置することが妥当であろうと思うんですけども、それが確認できていますか。

(植田部長) そこまでは確認できておりませんが、金属探知機を導入することが全てではなくて、ここにありますように、カット野菜の洗浄の徹底や目視チェックの強化など総合的に強化する中で、こちらとしては宮崎県の方で混入したという判断に変わりはありませんけども、そうであるならば、我々のところで防いでいくということが、ますます必要ではないかということをございますので、金属探知機については、できるだけ感知はしてほしいですが、そこが上手くいかなかった場合の対策もこうして講じようということをございます。

(小豆澤委員) お金をかけるのであれば、それぐらいのことは調べてやっていただきたかったということと、この対策によって更に働く人たちの負担を増やしていますよね。この金属探知機の導入によって、安心して現場で働けるのであれば、この予算の価値もあるのかもしれないけども、導入予定のものが宮崎の工場のものでどう違うのかも分からなければ、感知できなかった場合は人が全部カバーしていくということになると、ここで働く人たちのことを全く考えていないなというのが私の実感ですね。委託業者には自費で導入を促し、行政側はすぐに税金を投入する、こういうことを続けていては信用回復はないですよ。子どもたち、教育に関する設備投資だけでなく、働く側にとっても安心して働くことができる設備投資をしていただきたいと私は思います。

(槇野教育長) 金属探知機の発注に当たっては、感知能力、精度についてしっかりと仕様を固めたもので発注すべきだと思います。予算ありきではなく、このレベルのものが必要だからこれだけの予算が必要であるというところから話を始めないと、予算がいくらというところから入っていったら、今、小豆澤委員に言われたとおりのことになってしまいますので、発注に関して変更が効くものであれば今からでも変更すべきだと思います。

(錦田委員) 対策の5の②「混入リスクの低い食材及び献立を検討する」ということで、安全対策ということもありますけれども、教育的な側面も含めて、あるいは、地域の活

性化も含めて「地産地消」、俗っぽい言い方になってきましたけども、やはり地元の食材をいただけるありがたさなど、食の安全だけでなく教育面でも効果があるかなと思いますので、手間や経費の問題もあるかもしれませんが、ぜひ、出雲型の新しい学校給食、地元の新鮮な野菜を子どもたちが食べることができるような、そういったことで安全対策もできるのであれば良いなと思ひまして、改めて要望するものでございます。

(槇野教育長) 先般の市議会における全員協議会でも、安全を意識するあまりどこかおろそかになるのではないかというようなご指摘もいただいております、ごもったもなごことだと思います。ただ、安全面での配慮は大事ですし、午前中の限られた時間での調理という制約もあります。一方で「食育」や「地産地消」の大切さも分かりますので、どのあたりでバランスをとるかというところで、全部を満たすのはなかなか難しいので、そういった回答を議会へもしたところでした、どれかが極端に小さくならないように、気をつけてやっていきたいと思ひます。

(槇野教育長) それでは、続きまして、報告(2)「平成31年度文部科学省予算の概要について」を、教育政策課 渡部課長に説明願ひます。

(渡部課長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の報告(2)について、ご質問等ありましたら願ひします。

(小豆澤委員) 5ページの「学校を核とした地域力強化プラン」－「社会に開かれた教育課程の実現に向けた地域連携の基盤づくり」という部分で、出雲市としてはこの「地域学校協働活動」推進事業というものに力を入れていきたいという中で、先般から説明いただいている社会教育計画の中にそうしたことが含まれており、ここに予算上の位置付けがあるというようなイメージでよろしいですか。

(渡部課長) はい。

(松浦委員) 4ページの部活動指導員の配置など、予算は確保されても人がいるのかということですね。

(小豆澤委員) ここにあります小学校専科指導の充実ということなどによって先生の負担が軽減されるのだらうなというなんとなくのイメージは湧くのですが、人がいなければということですね。そのあたりは、後ほどお話を聞かせていただければと思ひます。

(槇野教育長) この英語の専科プラス千人については今年度もありまして、市内では小学校7校に5人を配置しています。ただ、教員の働き方改革ということで、専科でやることによって担任の負担をそれだけ減らして児童生徒と向き合う時間や授業の準備や

教材研究の時間を増やすということであれば良いのですが、英語はこれからやっという科目ですので、研修等などで担任自らが英語の指導力をつけていこうというときに、こういう英語の専科が来ても、やはり担任も参考になるということで授業を見たり一緒に入ったりするので、結局手が空かないわけですよ。

(小豆澤委員) 今あるコマの専科であれば効果があるということですね。

(槇野教育長) 理科、音楽、算数などの専科だったら良いのですが、英語の専科については働き方改革という面では効果が薄いと感じます。なおかつこの英語の専科も週24コマを持たなければいけないという基準があって、それを満たす学校ということになると大規模といいますかクラス数の多い学校でないとできないですね。出雲の場合もなかなか単独校では使いにくいので、2校が一緒になってようやくこの制度の利用ができていたということがあって、なかなか思うようにいかない面があります。

(槇野教育長) 次に、報告(3)「小学校普通教室エアコン設置工事の実施について」を、教育部 金山次長に説明願います。

(金山次長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の、報告(3)について、ご質問等ありましたらお願いします。

(各教育委員) ありません。

(槇野教育長) 次に、報告(4)「社会教育に係る中央教育審議会答申の概要について」を、教育政策課 渡部課長に説明願います。

(渡部課長) 資料に基づき説明

(槇野教育長) 只今の、報告(4)について、何か質問等はありませんか。

(各教育委員) ありません。

5 協議

(槇野教育長) 次に、協議事項に入ります。前回の定例会から、教育委員の皆様にお一人ずつテーマをいただいています。2回目となる本定例会では、小豆澤委員にお願いし、協議(1)「教職員の多忙化に関する教育現場の声」として議題をいただきました。先ず始めに、小豆澤委員から、ご提案の内容について簡単に説明をお願いします。

(小豆澤委員) 説明

(槇野教育長) 本テーマに関連して、本日は、小中学校長会会長であります 第一中学校 打田校長、北陽小学校 松本校長にお越しいただいています。先ず始めに、打田校長から本テーマに関連して、お感じになっていらっしゃると思いますことなど、お話いただけますでしょうか。

(打田校長) 教職員の様子を見てみると、本当に生きがい、働きがい、使命感を持って、子どもたちのために一生懸命がんばっていると、感謝しています。働き方改革ということで話がある前は、教職員は開始の時間はあっても終わりの時間の意識はあまりなかったと思います。そういう意味では、終わりの時間を意識するようになった、今の段階で意識改革にはなっているかなと感じています。

じゃあ、本当に勤務時間縮減ができていくかというところ、なかなかできていく状況にはないのではないかなと思います。

例えば、朝8：10から勤務が開始し、職員朝礼をして、学級に行って、朝礼をして、授業をして、終礼が終わるのが16：20です。職員室に帰れるのは16：30です。勤務時間は16：55までですので、職員室に帰ってきて25分で何ができるのかということがあります。それと、小学校に比べると中学校の方がまだ空き時間はあるとはいえ、多くて2時間、少ないと1日1時間しか空き時間がないということがけっこうあります。1～2時間の中で、生徒が提出したものをしっかり見ないとはいけませんし、また、それを何日間か置いて返せるなら良いのですが、その日に提出があったものはその日に見て返すということになりますから、限られた時間の中でやらなければいけないということになります。それ以外にも、次の日の授業がありますから、準備もしなければならぬ。そうすると、勤務時間内では難しい。また、保護者対応ということになると、どうしても夕方から夜にかけてということになります。

ただ、学校としても考えないといけませんので、会議を減らしたりとか一斉退庁日を設けたりしてはいますが、結局一斉退庁日を設けても、その日は早く帰りますが、その日にやらなければいけない仕事があるために、他の日にやったり、家でやったりということになって、仕事量が減るということになっていないので、根本的には仕事量が減らないとできないと思います。

例えば、教員の持ち時数が今の半分くらいになれば、かなりの余裕が持てて時間ができますし、欲を言えば、今35人学級ですが、それが減れば、提出物の量も減りますので、学級担任の仕事は減ります。

根本的な部分が減っていかないとなかなか難しいですが、今、出雲市は不登校対策指導員とか特別支援教育補助者とかつけていただいているんですけど、そういう方がいて手伝ってもらえるというのは助かっています。ただ、やはり担任が把握していないといけませんし、提出物も他の人が見ればよいのではないかという意見もあるかと思いますが、やはり生徒の評価ということを考えると、担当者が見ないと評価ができませんので、カットできない部分はたくさんあると言えます。中学校の場合は部活動の時間を少し減らしたりということで、いくらかは減ってくると思いますが、それだけでは解決できないと感じています。

(槇野教育長) それでは、松本校長からもお願いします。

(松本校長) 社会全体で「働き方改革」が叫ばれる中、「教員はブラックだ」という声も上がってきて、社会全体が学校の教員現場、教職員の仕事の仕方について意識を持っていたらということ、非常に喜ばしいことです。出雲市では、「教職員多忙化解消プラン」を昨年度策定されて、それに従って各学校でできるところからスタートしようということでプランを立てて実践をしているということについて、これはすごく前向きに受けとめています。何よりも教職員の意識が、「多忙化を解消しないといけない。」、「仕事を効率化していかないといけない。」、「スクラップ&ビルドをしていくんだ。」等、変わりつつあるかなと思っています。

それで、時間はなかったのですが、小学校の校長全員に実際何に取り組んでいるのかということを取りあえず聞いてみました。基本的には、先ほど打田先生が言われたように、いろいろ業務ができる時間を作るという視点でどこの学校も取り組んでいて、大きく5つ取組としてはありました。

一つ目は、校内会議を先ず見直すということです。今、ほとんどの学校が毎週行うのではなく月に2回とか、それから、職員朝礼も毎日ではなく週2回とかにしておられます。それから、職員会議のやり方についても、1時間の時間設定をしてやるとか、職員室においてパソコン上でやり取りをしてペーパーレスでやることによって印刷をや資料を配る時間を少なくするとか、そういう取組の報告がありました。

それから二つ目は、先ほどありました定時退庁日の設定ということで、なるべく早く帰る日を設けるという取組です。

三つ目は、事務処理と教材研究の時間の確保をどうやってやるかということで、小学校で多かったのは、学期始め・学期終わりのところをできるだけ午前中授業にしたり、短縮授業にしたりして、時間を作って先生方が事務作業ができる時間を増やしていくという工夫をしている学校もありました。

四つ目は、行事や教育活動その他の見直しなんですけど、思い切って今まではある行事を見直して少なくするとか、削るものは削るというのがありました。これは、私は両面あるかなと思っています、例えば、宿泊訓練を2泊3日から1泊2日にする、ある面はすごく良いことかもしれないけど、逆に捉えれば、子どもたちの体験活動とか、楽しいこと・活動がどんどん減っていく、ということにつながってくると考えています。それから、土日にやっている行事をできるだけやめて平日にやるとか、行事の練習時間とか、準備の時間を少なくするとか、家庭訪問をやめて学校に来ていただいて個人面談にするとか、今までは学年ごとに必ず最後は文集制作をしていたのをやめるとか、そういうこともありました。ある面、教育活動を削減していった時間を作るということは必要なことなのかもしれないけども、逆に教育的意味から考えてどうなのかなと思いつつ疑問も感じているところです。

五つ目は、先般の校長会でも話があったんですけども、保護者対応の電話の時間をきちんと設定して、朝は7時半から電話を取る、夜は18時半からは電話を取らないとかですね、そういうことを徹底している学校もありました。現に本校もそうしておりました。

て、春先に全保護者に周知して、1件も苦情はありません。説明責任を果たせば、保護者もそういうふうに対応してくれるのだなというふうに思ったところです。ただ、緊急時ということがあるので、本校の場合は公的な携帯をひとつ契約していて、緊急時はそれに電話していただくようにしています。それも先般校長会で話をしたら他校もどんどん採用したいなということで、問い合わせもありました。そういうふうに少しずつ教員が仕事をする時間というのを生み出してやるということを今どの学校も考えているところです。

これらの取組の成果といいますと、先ほど言ったように勤務時間を意識するようになった、特にICカードを入れていただいて、これは意識付けにはなったなと思います。ただ、先ほどありましたけど、早く帰ったからといって、仕事していないかという、特に本校は子育て世代の女性の先生が多くて、18時とか18時半に帰られるんですけど、ほとんど仕事を持って帰ってやっておられる現状があるかなというふうに思います。ですから、必ずしも早く帰ったから良いということではないということもあります。

それから、成果として先ほど言ったような教育活動の見直しの機運が高まったり、具体的に見直したりすることで時間的な余裕が生まれたのは確かです、効率的に時間を生み出して仕事ができるようになりつつあります。

課題は何かというと、教育の課題が非常に多様化していて、その対応というのは、保護者の問題もそうですし、特別な支援が必要な子どもがいればその子の支援に関わってケース会議を設けなければいけません。それは必要最低限なことなので、それを削るといふわけにはいかないので、それをしていかなければいけない、以前に比べて非常に多様化しているのは、問題かなというふうに思います。前に打田校長とも話したのですが、自分らが現場でやっている頃に比べたら、今は圧倒的に学校におられる先生方の数は多くて、補助者や介助者など外部の人もたくさん入っておられて、人は増えているんです。けども、多忙感とか、多忙化はあるかなという印象は非常に持っています。

それで、一番の解決策は何かと考えると、打田校長先生が言われたように定数を増やしていただくのが一番です、やはり授業時数を削減して、持ち時間を少なくすることによって時間を生み出す、そして少人数が進めば、それだけ負担も減るといったことがあるので、そういったことが一番かなというふうに思います。

一方、こういう意見を言われた校長先生もおられて、勤務時間の削減はなんのためにするかと考えたときに、やはり子どもと向き合う時間をしっかり確保するためにやっているのではないかと。そうやって、子どもと向き合う時間を確保して、先生方が教育活動に専念できれば、やりがいもあるし、居心地も良いし、しごこちも良いし、そういう学校現場になっていけば、多忙化はあるかもしれないけども、多忙感は少なくともなくなっていく。併せて管理職は何をしていかなければならないかという、先生方の仕事ぶりをしっかり認めて評価してあげる、それから、共同で取り組めることはできるだけ共同で取り組んでみんなチームで学校全体を動かしていく、そうしたことが、より多忙化を解消する近道かな、と言ってくださった校長先生もありました。ですから、時間削減だけに目が行くのではなくて、働き方そのものの中身についてもっと目を向けていかなければいけないということを書いてくださった校長先生もありました。以上です。

(槇野教育長) ありがとうございます。ひとつだけ、公用の携帯電話は誰が持っているのですか。

(松本校長) 教頭です。

(槇野教育長) そこへかかってくることはけっこうあるのですか。

(松本校長) ほとんどないです。夏休みに2～3回あった程度です。携帯電話は非常に安価で、3千円のプリペイドカードで1台の携帯電話をリースして、1か月間は発信もできるのですが、残り11ヶ月間は受信だけという契約で、年間3千円です。それなら、教育後援会にお願いしても認めてもらえるかなということで、他の学校の先生にもご紹介したところですが、本来なら市教委でそろえていただくと一番良いのですが。

(槇野教育長) そのことは、「留守番電話の導入」として多忙化解消プランの中の市が取り組むべき内容に入れていますので、それをどうやって実現するかということからすると、そういう方法もありかなと思って聞きました。

(松本校長) 留守番電話は、居れば良いのですが、教員が全員帰ってしまった場合のことを考えると、受信だけでも携帯電話があるとすぐに対応できますので。

(槇野教育長) 分かりました。そうしますと、只今お二人から、説明や思いを語っていただきましたので、質問等も含めまして、委員の皆様意見交換をお願いしたいと思います。

(小豆澤委員) 仕事量の削減ではなくて、質の改善というところにも目を向けてとおっしゃるんですけども、民間企業と違ってその質に対するお金であったり、地位であったりという評価がなかなか反映されないのが教育現場の現状で、そうすると結局「思い」の強い人に無理やり引っ張られて働く人が発生してしまうんですね。こういったことを「ブラック」と言うんですよ。「ブラック」って雇用主が強いていると思いがちなんですけども、実際に怖いのは、働いている現場の空気に、「自分は本当にしんどいんだけど」って思いながら引っ張られていく、そういったところが非常に大きいと思うんですよ。ただ民間企業の場合は、それに対して地位やお金といった評価の部分の提供の仕方で働く人と雇用主が折り合いをつけていくというのが実情かなと思うんですけども、なかなかこれだけの大組織になると、校長先生の強い信頼や仕事ぶりを認めたところでなかなか形に反映されていくということは難しい。

その中で、私が今二人の意見を聞いていて、一番そこしかないと思ったのは、やっぱり、時数をどう削減するかということだと思うんですよ。様々な制約に縛られている現状で、小さな工夫を積み重ねていくというのは非常に評価できるものであるし、そのプロセスがないと、これから仮に制度が変わって時数がポンと減少したとしても、「プロセスなき時数削減」では果たして効果がその後大きく出てくるのかな、とはなはだ疑

間も感じますので、今の現場の皆さんが四苦八苦されてご努力されることは大変評価できると思います。

でも、やっぱり最後に一つ聞きたいのは、制度上のことも含めて、削減するにはどうしたら良いのですかというのが知りたいということです。マンパワーを増やすという形は、ちょっと前に出た「専科の先生」によってできるかもしれないということかもしれませんが。

(松本校長) 個人的な意見としては、小学校は5年生以上は専科で良いと思っていますが、大規模校だとそれが可能なんですけど、小規模校では難しいと思います。専科にすると何が良いかといえば、例えば、その先生がその学年の理科を全部持っていれば、当然、12時間分を1時間の教材研究で、例えば4クラス分を一人でこなせるわけですよ。基本的に小学校は全ての教材研究をして臨まなければならない。けども、専科であれば、専門性の高い先生が、効率的な指導でやれる部分があるので、小学校の専科制というのは大事ですし、あわせて、小中のいわゆる「義務教育諸学校」であったり、そういう制度もこれから考えていかないといけないのではないかという気はしています。例えば、八束学園みたいに、小中が一緒な学校で、小学校・中学校の先生が交流しながら授業もしていくとか、そういうことをやっているところも実際あるわけですよ。成果がどうだったかということはあるのですが、少なくとも今の小学校の全科指導ということからいうと、少しでも専科の数を増やしていけば、かなり教材研究の時間とか事務量は減っていくし、指導も効率的になるような気がしています。定数が変わらないとしたらですが。

(打田校長) 中学校は専科みたいなものですから、なかなかそういうことでは解決できない。要は定数を増やすといっても、ただ一人増えても、教科ごとなので、一つの教科は減るけど、他の教科は減らないということになりますので、結局は、一人二人増えても、一定の人のみ楽になるということになるので、そのあたりは難しいところかなという気はしています。中学校の場合はかなり増やさないと、平均したら減りますけど、平均で考えることができないので。複数の免許を持っている人が増えれば、やりくりしながらできるんでしょうけど、そういう方も少ないので難しいかなと思っています。今の義務教育学校も、大規模な義務教育学校になると、なかなか小中のやりくりというのは難しいので、小規模な学校だとやりくりもできるのかなという気がしますが、なかなか難しい問題だなと思います。

(小豆澤委員) 結局今の勤務時間の上に更に部活動の指導もなさって、そこから更に仕事を重ねてという循環がやはり相当な負担だなと。で、先生によっては部活動の指導にもものすごく生きがい・やりがいを持っていらっしゃる方もいて、今の世の中の考え方というのが自分の思いとは別の方向にあると感じている方は多分たくさんいらっしゃるだろうと思ったときに、少なくとも1時間削減されることによって状況は改善するのではないのでしょうか。

(松本校長) 学級担任制でも、ある程度子どもの自主性に任せることができれば、学習をさせておいてその間に採点をするということはできます。グループ活動している間に連絡帳をチェックするとか、そういうことでなんとかこなしているという実態です。でも毎日1時間でも空き時間があれば全然違うと思います。

(小豆澤委員) 教育長、毎日1時間削減する方法を考えた方がよさそうですよ。

(槇野教育長) でも全ての人のひとり1時間の空き時間を与えようと思ったら相当ですよ。

(小豆澤委員) 特に中学校の保護者の皆さんも部活動に対しては意識が変わってきていると思うんですけど、1日の時数をこなしてそのあと部活動もとなると子どもたちも非常におなかいっぱいメニューの中で生きているのではないかとすると、何か良い方法はないんだろうかといったときに、やっぱり、これは単純な話かもしれないけども、長期休みをぎゅっと圧縮して、働き方をならせないかとか、そういった部分によって、仮に、一日一時間というものを長期間の間に少しでも収めていくことによって、みんなで一時間ずつ時間を作れないかなというのが私の思いでは少しあったんですけど。

(松本校長) 今、市内でおもしろいことを試行しようとしている小学校があつて、授業を午前中5時間、午後1時間にすることで、子どもが15時半に帰り、教職員の時間が1時間半生まれるという試みです。午前中を5時間にするには、1時間目と2時間目の間、3時間目と4時間目の間を5分の休憩にして、1時間の授業を40分にし、そのかわり午後の授業を65分授業にします。実際、授業は45分なんですけど、どこかで割り振りながら上手く時間設定することによって、15時半には先生方が子どもたちから解放されるという状況を作ろうということです。試行されるかどうかはわからないんですけど、なんとかやりくりしていかないと時間は生み出せないんで、来年度やられるとすれば、そういうのも見ながら考えていかなければいけないと思います。

(槇野教育長) エアコンがつけば、夏休みに授業しても良いのかもしれないけど、一方で変形労働時間制とか訳のわからない話も出ていますので慎重に考える必要はあります。部活に関して質問ですが、例えば2時間なら2時間、その限られた時間の中で効率的にやるというやり方とか、計画みたいなものを、子どもたちも含めて話し合っ作っていくというようなことは現実どうなんでしょうか。

(打田校長) 部活や顧問の考え方によりますが、自分たちで練習の仕方を考えたりとかそういうことをやっている部活もありますし、ただ、なかなかそれで効率化になっているかというとは分かりませんが、自分たちのやり方でやることで意欲が出るということもあるので。

(槇野教育長) 高校の進学校で、非常に練習の時間数や日数が少ないにもかかわらず、

全国大会へ出場するとかいうことがありますよね。そういうところは練習の内容とかやり方とか意識も含めてあるのではないですか。それを中学校でもやったら良いのではないかと思うんですけども。

(小豆澤委員) 私たちの頃の野球部の顧問の先生は、ノックのときしか出てこなかったですよ。

(打田校長) 今はとにかく安全上ついていなければいけません。生徒だけでやるというのはいけません。ですので、昔はそういった時間に仕事をしてということはありませんでしたが、今はもう部活が始まったら終わるまで必ず顧問はついていないといけません。

(榎野教育長) 顧問と副顧問の関係というのは、いろいろ人にもよるだろうし部活にもよるでしょうけども、役割の分担の仕方というか、その辺りはもっと改善の余地があるのではないですか。

(打田校長) 顧問がどうしても他の用事があってできないときは副顧問がやったりとか、顧問、副顧問が話し合っ、その辺りの分担は、大体どの部活もやっていると思います。例えば顧問がいないときには副顧問が出るなどやっていますよ。副顧問は指導はなかなかできませんので、ついて見ている、最低限、部活をしている間はそこに教員が誰か居るという形を取っていますので。

(榎野教育長) それは顧問が何人いるとか部によっても違うと思いますけども、均等に分担すれば、それだけ時間は空くわけで、指導は別ですけども。

(打田校長) 子どもたちもやはり指導をしてほしいわけで、専門的に指導できる人間が何人もいれば良いですけど、今は専門的に指導ができない人が持っている部活もかなりありますので、そうなると、なかなか均等にして3回に1回しか指導してもらえないということになると、子どもたちの意欲とかいろんな面でも影響もありますし、指導者も子どもたちを高めたいという思いが強いので、できる限り出てやりたいという思いの方もたくさんいらっしゃるんで、それを止めてまで均等にやりなさいというのはなかなか難しいかなと。働き方改革もやっぱり働く先生方の意欲を低下させないような形でやっ、ていかないと、やりすぎはいけませんので、そこは押さえないといけないですけど、やりたい方にはある程度やってもらおう形も作らないといけないと思います。どこかでがんばれる場所を先生方に作ってあげたいという気はします。

(松浦委員) 外部指導員が出雲は進んでいないという報告があったんですけど、やはりそこもリンクしてくるお話なんですか。人材がないということと、先生側からも「指導したいんです」ということでなかなか外部の人材を登用しないのか。

(打田校長) 自分が指導したいという方もいらっしゃいますけど、探しても、平日16

時とか16時半くらいから18時とか19時まで手伝ってもらえる方っていうのは、働いていない、どこかに勤めておられない方しか無理ですし、土日もなかなか午前中半日とか1日まるまる部活で出てきてくださいというのも、常時というのはなかなか難しいので、そういう方がいらっしやれば良いのですけど。

(松浦委員) 人材不足ということですか。

(錦田委員) 教職員のOBというのは、今後そういう可能性はないんですか。そういう話はあまりないのでしょうか。

(打田校長) 大体やめられてもすぐにお暇になる方は、今少ないので、65歳から70歳近くにならないとなかなかいらっしやいません。OBの方でも手伝っていただいている方はいらっしやいますけど、出雲市内の部活動の数とそうした方の人数を考えると、かなり少ないかなと思います。ただ、そういう方はいらっしやいますので、そうやってやっているところもあります。

(松浦委員) 小学校の先生の業務終了時間は、平均19時～20時くらいですか。

(松本校長) そうですね。ICカードの記録で本校の場合大体2.5時間くらいと記憶していますから、それくらいでしょうか。

(打田校長) 中学校は、夏と冬で部活動の時間が全然違いますから、夏だと19時くらいに生徒全員が帰るんですけど冬だともう18時とか17時半には帰りますので。

(松浦委員) そこからの2.5時間ですか。

(松本校長) うちの場合、若い教員が多くて、逆にその時間が同僚と教材について話ができて、良い時間になっているようです。帰ると仕事ができせんから。子供さんが小さい方は持って帰って仕事をされるけど、学校に居た方が仕事もできるし、いろいろな話が聞けるといいうのも一面はあるかなと思います。意識して早く帰るのではなくて、居ることで同僚と仕事の質を高めている部分もあると思います。

(打田校長) 帰るのは早いんだけど、その分朝早く来るという、6時半くらいから来る方もいらっしやいます。みなさんいろんなことをやりくりしながらできるところでやってくださいっているところですよ。

(槇野教育長) 「職業観」というか、職種によって違うんでしょうね。心配するのは、これから教員になろうという人をたくさん確保していく上で魅力的に思える仕事であってほしいなと思うんですけど、我々公務員と比べても違うし、民間企業とはもちろん違いますし。

(松浦委員) 金銭的なことも含めて評価の見直しなどの意見は校長先生の間では出ていないのですか。

(松本校長) 中国5県の中で島根県だけ評価が賞与に影響しないですよ。ただそれも学校の職場文化にはなじまないところもあります。

(槇野教育長) ただ他の4県はやっているわけですから。

(打田校長) その形でも少しでも反映されると、がんばった甲斐があったなという気にはなると思います。

(松本校長) 部活の手当などは自分たちの頃に比べたら3倍くらいにはなっています。

(松浦委員) この問題を理解してもらうために市のPTA連合会との懇談会の議題として良いのではないですか。今日お話いただいたような取組はなかなか保護者の方は理解されていないですよ。学校側から具体的に説明される機会はなかなかないですよ。

(槇野教育長) やはりそれは教育委員会の役割だと思いますね。保護者や地域に対してプランを策定したとか、こういう方向で進めているとか、それに対して協力を求めるとか、そういったことは我々の役割だと思いますし、個別のことになると学校の方からお知らせしてということもあるかとは思いますが。

(松浦委員) 部活のことは出雲は先進的に進められていると思いますけど、保護者から反発はありませんでしたか。

(打田校長) 特に聞いていません。今のところは、これから検討していきますという段階ですので、今年度中に考えて、来年度からやっていきますということで出していますので。

(小豆澤委員) 先生がいない自習時間もありますか。

(打田校長) 自習に関しては、なるべく自習をしないで授業をするようにしていますが、自習させるにしても必ず自習監督はつけています。そうすると空き時間もできませんので、出張を減らすということなども考えていかないといけないと思っています。

(錦田委員) そうすると先生方はほとんど休暇が取れませんね。

(打田校長) 一般的にはお昼休みなどがきちんとあると思いますが、それも教員の場合には取れないですね。

(小豆澤委員) 連休を取得しようと思うと、相当調整が必要ですね。

(錦田委員) 調べ物、調査物が多すぎるという声を学校の現場の先生方から以前聞いたことがありまして、実際、県や市などから調査物があると思うんですけども、その負担というのは、担任の先生レベルというよりも校長先生や教頭先生の方にあるのでしょうか。一昔前に比べて今の現状はどうなんでしょうか。

(打田校長) 基本的には教頭、主幹教諭で対応するようにはしていますが、どうしても書けないものもありますので、担当者に振る場合もありますけども、昔よりは減ったなと感じています。

(錦田委員) 10年前くらいに現場の先生方からそういった声を聞く機会が多かったものですから、そのことがかなり負担になっているのだろうと思っていたのですが、先程来あまり話に出ないので、担当、担任レベルではそう負担になっていないということですか

(打田校長) そうならないように、なるべく教頭や主幹教諭でやるようにしています。

(松本校長) 小さい学校では大変だと思います。同じものが同じだけ来るので、それから、出張も同じだけ、例えば悉皆の研修会ですとか割り当てがありますので、大変です。

(槇野教育長) 時間も大分経過しましたが、このあたりでよろしいでしょうか。それでは、2人の先生方には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

6 その他

(槇野教育長) 次に、「その他」に入ります。教育委員会の後援・共催事業について、教育政策課 渡部課長に説明をお願いします。

(渡部課長) 資料に基づき説明。

(槇野教育長) 只今の報告について、質問等はありませんか。

(各教育委員) ありません。

(槇野教育長) その他、委員の皆さま、あるいは事務局の方で、何かございますか。

(各教育委員) ありません。

7 次期教育委員会の開催時期

(榎野教育長) 次期教育委員会の日程ですが、平成31年2月21日(木)の、午後2時から、市民応接室で開催いたします。

閉会

(榎野教育長) 以上をもちまして、平成31年1月出雲市教育委員会定例会を閉会します。

(16:03) 定例教育委員会閉会